

壬申じんしんの年としの乱らんの平定しづまりにし以後のちの歌うた二首

四二六〇番

大君おほきみは 神かみにしませば 赤駒あかこまの 腹はら這はふ田居たゐを
都みやこと成なしつ

四二六一番

大君おほきみは 神かみにしませば 水鳥みづとりの すだく水沼みぬまを
都みやこと成なしつ

閏うるふ三月みづに、衛門督ゑもんのかみおほとももののこしひすくね
て、入唐副使にふたうふくし同胡麻呂どうこまる宿禰すくね等にせん餞うたする歌二首

四二六二番

唐国からくにに 行きゆ足たらはして 帰かへり来こむ ますら健男たけを
に 御酒みきたて奉まつる

四二六三番

櫛くしも見みじ 屋内やぬちも掃はかじ 草枕くさまくら 旅行たびゆく君きみを
齋いはふと思もひて